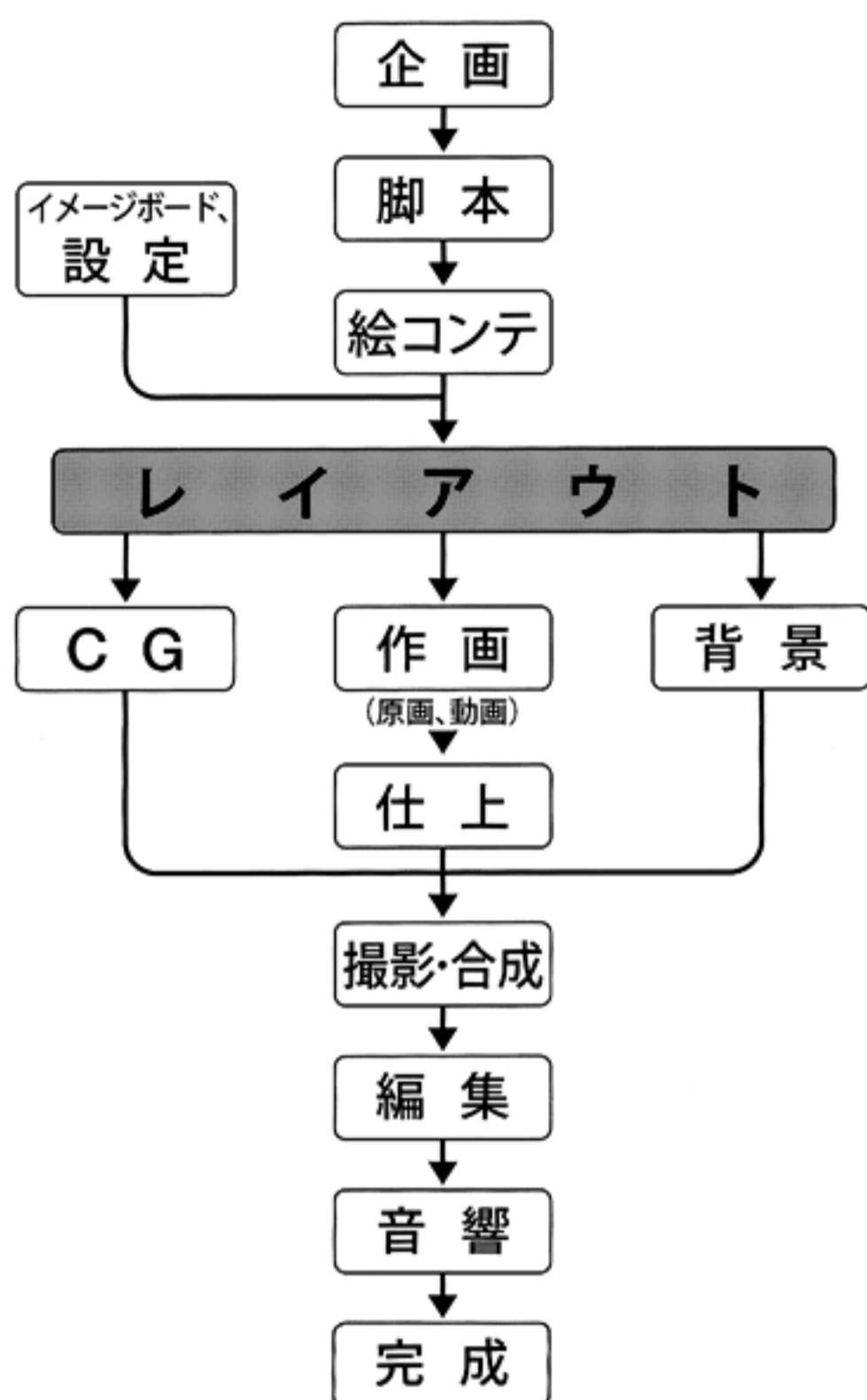


■アニメーションの制作工程における「レイアウト」の位置

日本におけるアニメーションの制作工程はおおよそ以下のようになっています(ただし、アニメーションの制作スタジオやスタッフによる違いはあり、また、3DCGアニメーションの場合は制作工程も大きく異なってきます。スタジオジブリにおいても、作品によって若干の違いはありますが、ここでは大まかな流れとしてまとめています)。



■絵コンテからレイアウトへ——アニメーションの制作工程

絵コンテ

絵コンテは、アニメーションを制作するためのベースであり、映画全体の「設計図」にあたります。絵コンテには、大まかな画面の構成や、カット内でのキャラクターの動き、カメラワーク、カットごとの秒数、演出の指示などが書かれたト書き、台詞、効果音等々、画面を構成するために必要な要素が書かれています。

絵コンテは、おもに監督や演出家が執筆します。例えば、宮崎駿監督作品の場合は本人が書き、高畑勲監督作品の場合は、高畑監督がラフにつくった絵コンテを元に、絵の部分を別の人間がクリンナップするというかたちをとられています。

絵コンテが作られる前段階には、脚本の執筆、イメージボードの制作などがあります。しかし、宮崎駿監督作品の場合は例外的に、大まかなプロットや構成をもとにして、正式な脚本のかたちを経ずに、絵コンテを書くというのが通例となっています。

レイアウト

レイアウトは、絵コンテで決められた大まかな構図をもとに、具体的にカットごとの画面を設計する作業です。絵コンテが映画全体の「設計図」であるとするれば、レイアウトは個々の場面(カット)の「設計図」と言えます。絵コンテに描かれている1カットごとの絵は、作画(原画および動画)、背景、CG、仕上などに分担して作りあげるため、それを集中管理するものが必要であり、その役割をレイアウトが担っています。また、あらかじめレイアウトをつくっておくことによって、その後の作業を同時並行に行うことが可能となり、作業の効率化を図ることも可能となります。

*こういった「レイアウトシステム」自体の詳細については、高畑勲監督による寄稿文「レイアウトはアニメーション映画制作のキー・ポイント」(P5～)も併せてお読み下さい。

作画

レイアウトはおもに、そのカットの原画の担当者が描きます。演出および作画監督のチェックを受けたレイアウトをもとに、キャラクターの動きなど、作画で描くべき部分を、原画担当者が自ら描きます。

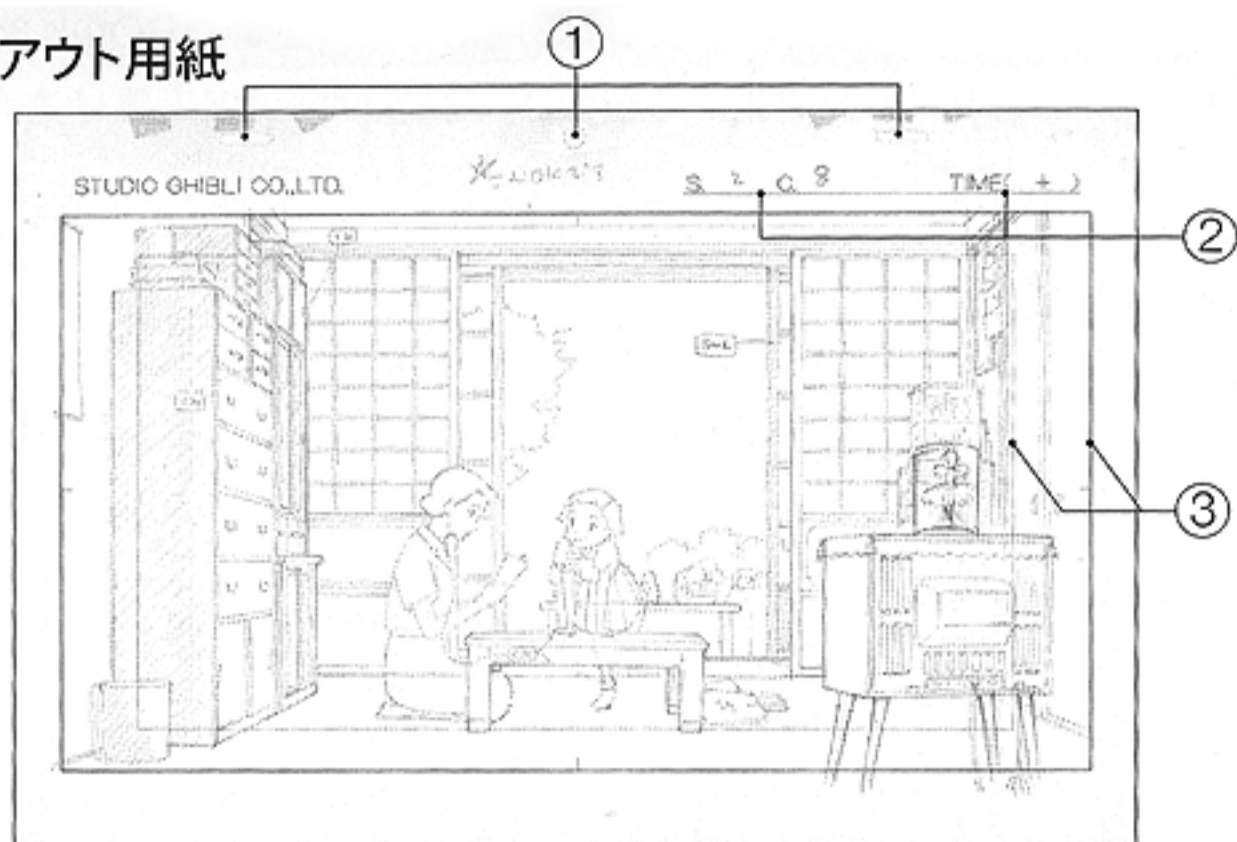
背景

レイアウトをもとに、背景(BG)と指示のある部分を、背景画の担当者が描きます。また、カットによっては背景画の担当者もしくは美術監督が、レイアウトをもとにして、より詳細な「背景原図」を描くこともあります。

撮影・合成

レイアウトでは、カット内でのカメラワークや、フレーム内でのキャラクターの動き、また、特殊効果の指示などが書かれることもあります。撮影担当者もまた、レイアウトの指示を見ながら、最終的な画面をつくりあげていきます。撮影は現在、そのすべての作業をコンピューター上で行い、各素材の合成もこの工程で行なわれます。

■レイアウト用紙



①タップ穴

原画や背景などの位置を合わせるための基準となるもの。作画の際には、タップ穴で位置合わせをしながら原画や動画は描かれます。撮影台を使っていた時代には、撮影の際にもタップで位置を合わせていました。コンピューターにデータを取り込む際の位置あわせとして、タップ穴は今でもレイアウト用紙に残されています。

②カットナンバー／TIME

カットナンバーがここに書かれます。宮崎監督作品は、基本的にカットナンバーのみですが、高畑監督作品は、シーンナンバーとカットナンバーのふたつで構成されます。TIMEには、そのカットの秒数が書かれます。

③フレーム

レイアウト用紙には、点線と実線のふたつのフレームがガイドラインとして記されています。内側の点線のフレームは、「安全フレーム」とも呼ばれます。主たるキャラクターの演技などは、この安全フレームの中で行うのが基本です。また、上映される劇場の状態や、放映されるテレビなどの個体差によって、若干の見え方の差があったのですが、この「安全フレーム」内であれば、確実に見えるというガイドラインでもありました。

■レイアウト用紙の種類

レイアウト用紙は、上映(放映)フォーマットによって、いくつか異なる大きさのものがああります。また、これは制作スタジオによっても異なります。スタジオジブリでは、劇場映画の場合、おもに「150フレーム」と呼ばれるサイズの内紙が使われます。ただし、「耳をすませば」「猫の恩返し」「海がきこえる」では、時間と費用の節約を考えて、ひと回り小さい「120フレーム」と呼ばれるサイズの内紙が使われました。また「ホーホケキョとなりの山田くん」では、ざっくりした線画のタッチを生かすために、さらに小さい「100フレーム」の内紙を使っています。これは、テレビシリーズなどで使用される用紙と同じ横幅ですが、天地を切ったさらに小さなサイズとなっています。